

## 2020年6月NHK近畿地方放送番組審議会

6月のNHK近畿地方放送番組審議会は、17日(水)、NHK大阪拠点放送局(ウェブ開催)において、9人の委員が出席して開かれた。

会議に先立ち、6月7日(日)に放送した「これでわかった!世界のいま」の内容について報告があった。

会議では、事前に視聴してもらった、歴史秘話ヒストリア「正倉院宝物 守られた奇跡の輝き」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、視聴者意向報告と放送番組モニター報告、7月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

- 委員長 篠 雅廣(大阪市立美術館 館長)
- 副委員長 帯野久美子(関西経済同友会 常任幹事)
- 委員 黒木 麻実(公益社団法人 全国消費生活相談員協会  
関西支部副支部長)
- 笹岡 隆甫(華道 未生流笹岡 三代家元)
- 鈴木 元子(杉本や編集処 編集者)
- 添田 隆昭(総本山金剛峯寺執行長・高野山真言宗  
宗務総長・高野山学園理事長)
- 堀江 尚子(認定NPO法人 くさつ未来プロジェクト  
代表)
- 矢崎 和彦((株)フェリシモ 代表取締役社長)
- 安井 良則(大阪府済生会中津病院 臨床教育部部長 兼  
感染管理室室長)

### (主な発言)

<歴史秘話ヒストリア「正倉院宝物 守られた奇跡の輝き」

(総合 5月13日(水)) について>

- 教科書でカラーで見たことのある螺鈿紫檀五絃琵琶には裏側にも見事な装飾が施されていることや、宝物は修復されながらも1,300年前の美しさを保っていることを知り、驚いた。鳥毛立女屏風に実際に鳥の羽毛が使われていることや、国

産の宝物であることも初めて知った。これまで宝物のほとんどは海外で作られていると思っていたので、国産であることが意外に思った。年間を通じて行われた湿度の調査や琵琶に描かれている絵の復元など、かなり時間をかけて制作された番組ではないかと感じた。この番組は、作品を見るだけではわからない部分を、最先端の機器を使って調査し、判明したことを紹介しており、見る価値があると感じた。予備知識の有無で作品の見え方が大きく異なると思うが、まもなく開催される特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技」を見に行くのが楽しみになる番組だった。

- 正倉院宝物の美しい映像とともに、聖武天皇、光明皇后を始め、たすきをつないできた関係者の思いを紹介しており、とても楽しめる番組だった。宝物の9割以上が国産の材料を用いて日本で作られたという比較的新しい知見をもとに、多様な識者の意見を紹介しながら、ごま油とベンガラを混ぜて和鏡を磨くなどの興味深い検証も取り上げていた。ただし気になった点が2点あった。まず、エピソードのタイトルがすぐに消えてしまうので、見ている人がわかりやすいよう、もう少し長く画面に残したほうがよかったと思う。また、案内役の渡邊佐和子アナウンサーの声の演出について、エコーがかかっており雰囲気が出ているが、単にエコーをかけただけという印象なので、もう少し意味を持たせて、効果的な使い方をしてよかったのではないかな。

(NHK側)

「エピソードのタイトル表示が短い」という指摘についてだが、画面右上の「紹介している内容」の表示もうまく活用しながら、話の展開がわかりやすくなるよう、工夫していきたい。アナウンサーの声にかけるエコーについては、以前、指摘いただいた際、スタッフと議論して現在の状況に落ち着いていたが、引き続き検討していきたい。

- 正倉院宝物をわかりやすく紹介した番組だった。番組開始後まもなく“正倉院宝物はシルクロードを通ってもたらされたもの”という幻想を覆しており、つかみとしてよかった。国産の宝物がかなり多いことはだいぶ前から言われてきたが、現在確認されている宝物の「9割以上」と数字を示し、番組でどのような手法で

その宝物に迫るのかと冒頭に方向性を示したのはよかった。その後はきれい過ぎる展開で番組全体の印象は弱く、内匠寮で宝物制作が行われてきたことを、古代史上最高レベルの発見として演出していたが、冒頭の衝撃ほどではなかった。宝物の由来などに多くの時間を割いていたので、番組のタイトルとやや合致していない印象を受けた。コメントする出演者も若干多く感じられて、目まぐるしく感じた。その中で印象に残ったのは、継ぎはぎだらけの鏡の映像だ。さまざまな角度からの映像やアニメーションも用いて丁寧に紹介しており、宝物に対する真摯（しんし）な姿勢が感じられた。また、再現ドラマで使われていた聖武天皇の調度品からは、制作者の細部へのこだわりが感じられて、興味深かった。一方で、気になった点をあげると、まず「聖武天皇の遺品が正倉院に収められたのが正倉院宝物の始まりで、その後蔵は封印されてきた」というナレーションだ。正倉院宝物には、天皇とは直接関係ない、東大寺の仏具なども含まれているが、天皇由来の品だけという印象を与えるので、補足説明があったほうがよかったのではないか。また「鳥毛立女屏風」、小刀の「犀角把白銀葛形鞘珠玉荘刀子」の表記に誤りがあると思ったので、指摘しておきたい。2年がかりで撮影した映像は精細で、番組でもっと見たかった。

#### （NHK側）

宝物の表記についてだが、鳥毛立女屏風の「屏」については宮内庁の資料などを確認したうえで、この表記としている。小刀の「葛」は指摘のとおりで、今後、より一層誤りのないように努めたい。

- 正倉院宝物を8K映像で記録しておき、技術的に映像を保存し続けることができれば、100年後、200年後も細部まで見ることができるので、8K撮影はとても意義のあることだ。番組で、蘭奢待が思っていたよりも大きいことを知った。また、鳥毛立女屏風が国産ということなので、当時の美人の基準がよくわかった。さまざまな時代の美術品を通して、「美」の変遷を見る作品展を企画したら興味深いと感じた。
- 渡邊アナウンサーの落ち着いた声と音楽とともに、映画を見ているように感じた。ごま油とベンガラで磨き上げた和鏡を渡邊アナウンサーが手に持った場面には驚きがあり、蘭奢待の場面では実際に香りを感じたような気になった。2年かけて紫

檀木画槽琵琶の絵を復元した場面では、すべての顔料が特定され、鮮やかな色彩によみがえった様子に、本当に感動した。正倉院宝物は1,300年前から日本で受け継がれてきた宝だが、世界の宝でもあると思うので、どのような努力を積み重ねて受け継いできたかを世界中の人に伝えたいと思った。特に、番組を英語化し、オンラインなどで子どもたちに見てもらいたいと思った。ほとんど知られていないような仕事が紹介されており、職業に関する教育につながるのではないか。技術の発達でこれまで知ることができなかった事実を知ることができるようになり、さらに高度な技術が開発されれば、より鮮明に過去にスポットライトを当てることができると感じられる内容だった。

- 見応えのある、クオリティーの高い番組だった。番組を二度見たが、一度目と二度目では別の場面に関心を向けてしまうぐらい、密度の高い情報が散りばめられていた。1,300年の時を宝物がつないでくれていたといえるが、2年がかりで撮影した8K映像も未来につながる宝物のように思った。番組からは発見や驚きがたくさんあったが、宝物の9割以上が国産であることは誇らしいと感じた。聖武天皇が権威を高めるために文化を利用したという話は今にも通じる話で、内匠寮は“ものづくり日本”の原点だと思った。1,300年にわたって、保存され修復されている見事なリレーが、今作られているものにおいてはどうなっていくのだろうかと考えさせられた。当時から蔵と箱を用いた湿度管理の知恵があったことや、当時使用されていた素材を突き止められる現在の科学技術にも驚いた。蘭奢待の一部を切り取って献上することで、ほかの宝物を守るという僧の知恵もすばらしいと思った。個人的には「歴史秘話ヒストリア」に再現ドラマは必要ないと感じるが、制作者側の演出の意図を知りたいと思う。

#### (NHK側)

再現ドラマについてだが、今回の内匠寮の工人については、イメージが視聴者の方にはほとんど無いと思われるので、他の手法を用いて紹介するのは難しいと考えた。コメントや絵、アニメーションでも説明することは可能だが、役者が演じる再現ドラマのほうが、視聴者にもう一段進んだインパクトを与えられると考えた。また、登場人物の思いなどを伝える要所においては、効果的な手法の1つだと考えている。

- 正倉院宝物の知識はほとんどなく、この番組を通じて、宝物の9割以上が国内で製造されたものだという事を知り、驚いた。蘭奢待が足利義政や織田信長などの時の権力者に一部を切り取られてきたことは知っていたが、明治天皇も切り取っていたことは初めて知ったので、その理由を知りたいと思った。聖武天皇が創設した内匠寮で作成された宝物が1,300年を経て現在まで保たれていた理由が紹介されていたが、正倉院とその宝物を守るために、どれだけの人々が世代を越えて関わり、努力し、力を注いできたのだろうと思った。
  
- 飛鳥時代から奈良時代までをテーマにした番組が少ないので、この番組は興味を持って何度も見た。いちばん興味深かったのは聖武天皇の再現ドラマの場面で、天皇の衣装や調度品からは、天平文化をかいま見たようでロマンを感じた。当時の資料は少ないと思うが、衣装考証や時代考証はどの程度史実に忠実にしているのだろうか。宝物の9割以上が国産だということに驚いた。飛鳥時代は渡来人の技術を、聖武天皇の時代は遣唐使が持ち帰った中国の伝統や技術を習得することで、海外の文化や技術を取り入れて日本のものにしていった。そのことは日本独特の力ではないかと感じた。世代を超えて修復してきたということだが、今直せなくても将来直せるかもしれないので一切捨てないという、悠久の歴史の中で物事を捉える姿勢は、次の世代にも伝えていってほしいと感じた。「古代の宝物がこれほど美しいまま伝えられている例は世界でもここだけ」「天皇の権威を高めるために、正倉院宝物を使った」ということは初めて知ったが、どの程度検証されているのかも知りたいと思った。

#### (NHK側)

天平文化の時代考証については、専門家の監修などを受けながら、現存するものをできるかぎり研究し、ディレクターが小道具や大道具、衣装を担当するスタッフと相談をしながら、なるべく近いものを用意しようとしている。時代が古くなるほど難しいが、スタッフ全員で日々努力している。

また、「古代の宝物が美しく伝えられているのは、世界でもここだけだ」というコメントについては、専門家の説明に基づいている。ほかの地域に現存する宝物は、地中に埋まっていたため、美しさの点で少し劣っていること、1,300年前の宝物が9,000点という規模で美しいまま保存されているのは、正倉院宝物だけと

ということだ。「天皇の権威を高めるために、正倉院宝物を使った」というコメントについては、番組にも出演いただいた大正大学の榎本淳一教授の見解に基づいている。

- 学会などで発表されている内容だが、一般視聴者向けにわかりやすく制作された番組だと思う。近年の考古学的発掘の成果を生かして、内匠寮での制作など、国産であることの背景もよく分かった。番組では慎重な表現をとったのだと思うが、正倉院宝物は当時の日本人が作ったものか、唐から来日した工人の手によるものかは判断しがたいと感じた。また、螺鈿紫檀五絃琵琶は、史実として聖武天皇の持ち物であることは間違いないが、琵琶の胴部のバチによる傷が天皇自身によるものという説は、大胆な仮説だと感じた。蘭奢待については、信長が、天皇宝物帳に記載されているすべての香木を所望したと言われていることや、東大寺側が、前例がないとして断り、その代わり、一部を裁断したが、信長はすべての香木の閲覧だけはしたということなどの史実も盛り込めば、番組構成上おもしろかったのではないか。すべてのエピソードへの踏み込み方が浅いと感じたので、もう少し掘り下げれば、NHKならではの番組が複数制作できるのではないか。ドローンによる映像は、鳥観のように視界が開けていく新しい視覚表現として楽しみにしている。この番組では比較的緩やかなスピードで安心して見ることができた。

#### (NHK側)

内匠寮で働いていた人たちは、唐の工人なのか、日本人なのか、渡来人なのかという点に関しては、議論があると聞いており、「国産」というコメントにした。「エピソードへの踏み込み方が浅い」という指摘については今回の場合は、複数の宝物を紹介することをメインとしていたため、バランスをとった形だ。本日いただいた意見は今後の番組制作の参考にしていきたい。

- 渡来物で著名な正倉院の宝物だが、実は9割以上が国産であること、また、割れた鏡の修復や、明治期の修理、当時の色彩の再現など、古い宝物と後世の技術が融合して、貴重な宝物が守られてきたことがよくわかり、歴史と現代を結びつける貴重な内容が満載の優れた教養番組となっていた。いつも随所におりこまれている再現ドラマの場面も、視聴者への理解を助けていた。後半の琵琶の絵柄については、鮮やかに当時の色彩を再現していたので、欲を言えば、鳥毛立女屏風

についても、鳥の羽根がはりつけてあったことまでは解説し、さらに、すべてを復元すればどのようなものであったかをぜひ紹介してほしいと思った。見ごたえのあるものになると思うので、続編に期待している。大阪局のウェブサイトにある関西ブログでも、担当ディレクターの思いが伝わり、放送とインターネットの融合により、作り手側の方の思いも深く理解できた。再現ドラマの場合、最後のスタッフロールに俳優の名前が出るときと出ないときがあるように思うが、判断基準があるのだろうかと感じた。

今回の歴史番組では、聖武天皇の時代が再現ドラマになっていたが、聖武天皇と光明皇后等の時代をとりあげた大河ドラマは制作できないものだろうか。大河ドラマといえば、歴史ドラマの王道としての社会的評価を確立しているが、古代をとりあげれば新機軸となり、関西地域の活性化にもつながり、おもしろいのではないかと考えている。もし実現すれば、ドラマはフィクションとはいっても、「日本」の成り立ちにおける寺院や天皇のありかた、大陸との往来なども描くことができ、歴史理解もより深まるのではないか。

#### (NHK側)

この番組は、特別に許可を得て正倉院宝物を2年がかりで8Kで撮影した映像をもとに制作した番組であり、2019年10月30日(水)のNHKスペシャル「天皇が創った至宝～正倉院宝物が伝える“日本誕生”～」(総合 後10:00～11:19)、3月に8Kで放送したシリーズ「正倉院宝物 守られた奇跡の輝き」(8K 8日(日)後4:45～5:00、14日(土)後2:45～3:00、22日(日)後4:40～5:00)に続く、集大成ともいえる番組だ。記録した映像は、NHKのみならず世界の資産でもあるので、今後も番組制作に活用していきたい。また、8Kがますます普及していけば、多くの視聴者が精細な映像で楽しむこともできる。

NHK大阪拠点放送局  
番組審議会事務局

## 2020年5月NHK近畿地方放送番組審議会

5月のNHK近畿地方放送番組審議会は、17日(水)、NHK大阪拠点放送局(ウェブ開催)において、11人の委員が出席して開かれた。会議では、事前に視聴してもらった、かんさい熱視線「“コロナ”と戦う」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、視聴者意向報告と放送番組モニター報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

- 委員長 篠 雅廣(大阪市立美術館 館長)
- 副委員長 帯野久美子(関西経済同友会 常任幹事)
- 委員 黒木 麻実(公益社団法人 全国消費生活相談員協会  
関西支部副支部長)
- 佐伯 順子(同志社大学社会学部 教授)
- 笹岡 隆甫(華道 未生流笹岡 三代家元)
- 鈴木 元子(杉本や編集処 編集者)
- 添田 隆昭(総本山金剛峯寺執行長・高野山真言宗  
宗務総長・高野山学園理事長)
- 平田オリザ(劇作家・演出家)
- 堀江 尚子(認定NPO法人 くさつ未来プロジェクト  
代表)
- 矢崎 和彦((株)フェリシモ 代表取締役社長)
- 安井 良則(大阪府済生会中津病院 臨床教育部部長 兼  
感染管理室室長)

### (主な発言)

<かんさい熱視線「“コロナ”と戦う」

(総合 4月24日(金) 後7:30~8:42) について>

- 連日、新型コロナウイルスに関して報道されているが、番組前半の、アスリートに焦点を当てたパートは新しい視点だと感じた。東京オリンピック・パラリン



ピックが延期されることは選手にとって大きな負担があり、特に、パラリンピックへの出場を目指す障害者にとっては体力維持の問題などもあり、新型コロナウイルスへの不安がより深刻なのだと知った。財政的に恵まれないチームは、試合ができないことが存続の危機にも直結する。スポーツや文化などの分野は後回しにされがちだが、ここにも国の援助が必要だと感じた。

後半の、視聴者からの疑問に専門家が答えていくパートでは、生活に直結する情報が多く、勉強になった。世の中にはデマ情報など多いが、新型コロナウイルスについて正しい知識を持ち、“正しく恐れる”ことが重要だと思った。今後、緊急事態宣言が解除されるなど、新型コロナウイルスが収束に向かうと、外出者が増えていくと思う。それについてはやむを得ない部分もあると思うが、感染者が再び増えることへの危惧もある。

今回、番組は前半・後半の2部構成だったが、新型コロナウイルス関連とはいえ、全く違う内容で2つの要素のつながりがよく分からなかった。

- 前半パートでは、オリンピック・パラリンピックに向けて準備してきたアスリートにとって、開催延期による苦勞がよく分かった。一方、来年、オリンピック・パラリンピックが開催されることについて市民の不安の声や、オリンピック・パラリンピック以外の大会でも活躍の場があるということについてもあわせて伝えていく必要があると感じた。

後半パートでは、近畿大学医学部の宮澤正顯教授が専門家として視聴者やゲストからの質問に丁寧に分かりやすく答えていて、内容も市民目線で役に立つ情報が多くよかった。大学としても市民に向けて新型コロナウイルスの情報を発信していて、放送とも連動しつつ伝えていくことは、大学の社会的責任を果たす意味でもとても良かった。

- 前半パートでは、オリンピック・パラリンピックの延期について、アスリートからの前向きなことばが印象的で、視聴者にも元気を分けてくれるような作りとなっていてよかった。また、コメンテーターによる解説も的確で、全体としてよくまとまっていたと思う。近畿出身の新型コロナウイルスと戦うアスリートに着目し、より身近に感じる構成になっていたことは、地域放送の意義を感じた。今後はスポーツ以外の分野の厳しい状況についても取り上げてほしい。

後半パートについて、専門家のことばは大変分かりやすく、的確でよかった。

また、視聴者からの質問にできるだけ答えていくというスタンスにも好感が持て、他番組とも差別化できていたと思う。一方、質問数が多かったことやリモートによるタイムラグなどで、前半に比べ慌ただしい印象を持った。中には、質問に答え切れず、適切とは言い難い回答もあった。リモートでタイムラグが生じる場合、あらかじめ質問をするタイミングを決めておくなどの配慮も必要だと感じた。全体を通して、番組が老若男女問わず見やすい時間帯に編成されていることはよかったが、番組名「“コロナ”と戦う」に関しては、もう少し内容が想起できるような工夫が欲しかった。

厳しい状況が続くが、公共放送の意義が問われている。視聴者にとって重要度の高い番組はインターネット配信なども積極的に進めるなど、質の高い番組を広く届けて欲しい。

#### (NHK側)

まず、NHKの新型コロナウイルスに関する報道姿勢だが、取材に際しては、安全確保・感染拡大防止の対策を取っている。2月ごろから新型コロナウイルス関連の報道が増加し、視聴者のさまざまな興味・関心に応えるため、必要な情報を幅広く報道するよう心がけている。

大阪拠点放送局として、特に、地域の詳しい動きや身近な生活にかかわる情報、経済への影響に重点をおいた取材を行い、視聴者の疑問や不安を解消する報道に注力している。その根幹には、感染拡大防止があり、必要な情報をさまざまな方法で発信している。具体的には、テレビやラジオの定時のニュース・報道番組はもちろん、特設ニュース、速報スーパー、画面上部に文字情報を流すほか、近畿向けの特設ウェブサイトも開設するなど、インターネットも駆使して広く発信している。今回視聴番組となった「かんさい熱視線」では、2月以降、9回にわたって新型コロナウイルス関連の内容を放送している。

- 前半パートでは、アスリートやプロスポーツ界への新型コロナウイルスの影響がよく理解できた。特に、選手によっては免疫力の問題などで、競技を行うこと自体が困難な方もいることをはじめて知り、それでも大会を目指す姿勢に感銘を受けた。地方のプロスポーツ運営における資金問題についても取材していたが、長期的に取材を続けている報道姿勢に好感が持てた。一方で、番組の放送時期を考えると、スポーツの分野であればオリンピック・パラリンピックよりも、開幕が待たれるプロスポ

一つの問題に焦点を当てたほうが視聴者の関心はより高かったように思う。

後半パートでは、身近な疑問に専門家が簡潔に回答しており好感が持てた。Q & A にしっかり 40 分ほど時間が割かれ、回答した専門家の穏やかな表情とわかりやすいことばから、明るい気分で見ることができた。また、ほかの分野の専門家による回答も紹介していくことで、情報の信頼度も高まっており、最後まで飽きることなく見ることができた。

全体を通して、前半と後半で全く異なる要素の 2 部構成だったため、番組名「“コロナ”と戦う」は抽象的で、番組の全容を伝えきれていないように感じた。また、なぜ前半・後半の 2 部構成になったのか、その意図があまり伝わってこなかった。今後もその時々ニーズに応じて、必要な情報が視聴者に分かりやすく伝わる番組を作ってほしい。

#### (NHK側)

前半パートと後半パートのつながりが分かりにくいという指摘は真摯に受け止めつつ、今後もその時々視聴者の疑問や不安に答え、元気がでるような放送を心がけ、公共放送としての役割を果たしていきたい。

- アスリートはオリンピック・パラリンピック延期により苦労も多いと思うが、悪いことがあれば良いこともあると考え、前向きに頑張ってもらいたいと思った。

新型コロナウイルスの拡大でのいわゆる“自粛警察”のように、同調圧力のもと一つの方向へ突き進み、それに沿わない者を非難するという流れがあるようだ。新型コロナウイルス拡大の前後では日本社会が向かう方向性も異なってくると思うので、NHKにはその動向にも注意を払いながら、番組を制作して欲しい。

- 前半パートについて、オリンピック・パラリンピックを目指す選手たちは皆、体が強く健康だというイメージがあったため、新型コロナウイルスが選手によっては生死にかかわる問題だということに驚き、マスクの重要性についても再確認した。番組からは、「苦しい状況でも、スポーツは人と人とをつないだり、社会を元気にしたりするためにある。我々アスリートと一緒に頑張っていこう」というメッセージを受け取った。

後半パートは、生活に直結する情報が多く、大変興味深かった。専門家の答え方も、視聴者に安心感を与えられるものでよかった。リモートによるタイムラグなどで滞

る場面もあったが、新型コロナウイルスの拡大でできることが制限される中、方法を模索しながらも情報を伝えようとする姿勢に勇気をもらった。専門家の回答は、基本的に分かりやすいものが多かったが、時折解釈に迷う回答もあった。新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、緊急事態宣言が解除され、徐々に日常が戻ってきている状況だが、今後も事態に沿った情報を伝える番組を作ってほしい。

- 新型コロナウイルスの拡大で危険をあおるような番組が多い中、落ち着いた構成となっており、よかった。この時期にアーティストが番組に出演することで不評意見が出てくることもあるかもしれないが、前半パートで出演されたアスリートの出演に関しては、視聴者からどのような反応があったのか気になる。スポーツ・文化など、命の次に何を大切にするかは人によって異なるため、それぞれが大切にしている分野を、お互いに尊重していくことが重要だと思う。今後、スポーツや音楽・演劇など、異なる分野を横断的に取り上げる番組があれば、お互いの理解につながるのではと思った。

後半パートは、大変よくできていたが、ウイルスと菌の違いなど、もう少し基本的なことを最初に丁寧に確認したうえで個別の質問に入っていくと、さらに分かりやすくなったと思う。

#### (NHK側)

番組前半のパートは、当初は、オリンピック・パラリンピック延期の議論が始まったころ企画されたが、取材の最中で延期が決定し、その後も刻々と状況が変化した。プロスポーツに焦点を当てた方がよかったのではという意見もいただいたが、プロスポーツの問題に世間の注目が集まる頃には、プロスポーツを含む多くの取材自体が困難な状況になっていた。そのような状況でも取材に応じていただいたオリンピック・パラリンピックを目指すアスリートからのメッセージを、どのタイミングで視聴者に届けるべきか模索していた。一方、同時期に視聴者に募集していた新型コロナウイルスに関する質問が多数届いており、こちらにも回答する機会が必要だと考えた。そのような経緯で、今回は新型コロナウイルスに関する異なる切り口で、2部構成で放送することにした。

前半パートに関して、スポーツを優先して伝えるべき情報だったのかという意見もあるかもしれないが、取材したアスリートから、「使命感を持って社会貢献したいが、それが困難な状況の中、せめて我々は前を向いてい

ることを伝えたい」という趣旨のことばがあり、この発言は視聴者の背中を押すのではないかと考えた。オリンピック・パラリンピックの開催については様々な意見があるため、取材を重ね、引き続き取り上げていくべきだと考えている。また、スポーツ以外もあらゆる分野が打撃を受けているので、各現場の声も視聴者に伝えていきたい。アスリートが出演することについて、視聴者から否定的な意見は少なかった。番組名「“コロナ”と戦う」について、異なる内容を一つにまとめるうえで、工夫が足りなかった部分があるという指摘については重く受け止め、今後に生かしていきたい。

#### (NHK側)

後半パートについては、新型コロナウイルスに関する情報が大量に出回り、不安をあおるようなものも多い状況で、何を伝えるべきか模索した結果、生活者目線の身近な疑問を少しでも多く丁寧に答えていくことが、視聴者にとって一番役に立ち、“正しく恐れる”ことにもつながると考えた。視聴者からはおおむね好評意見をいただいたが、リモートによるタイムラグなどでズレが生じ、視聴者に伝わりづらい部分が出てしまったところが反省点だと考えている。リモートによる遅延に関しては、高速のインターネット回線を新たに設けることで、現在は改善している。より落ち着いた雰囲気でも視聴者に正確・丁寧な情報を伝えられるような演出方法を考えていきたい。

- 前半パートについて、緊急事態宣言が出され、「ステイホーム」が促される中、なぜ今スポーツなのか、壊滅的な経済の情報をもっと取材してほしいと思ったが、説明を聞き、その意味が理解できた。

後半パートについて、専門家の回答が的確を射ており分かりやすかった。リモートによるタイムラグは気になったが、新鮮でもあった。今後もリモートでの出演が続くようであれば、視聴者がより心地よく見られるような技術をさらに研究してもらいたい。

ニュースなどで発表している新型コロナウイルスの感染者数は、累計数のみが表示されるものとなっており不安を煽るものになっているように感じる。サイトによっては現時点の感染者数が表示されるものになっており良い方向に向かっていることが確認できるので、そのような表示ができないか検討していただきたい。

(NHK側)

新型コロナウイルスの感染者数発表については、累計だけでなく、その日の新規感染者数や退院者数についてもあわせて表記している。今後は、吉村洋文大阪府知事の提唱した「大阪モデル」の指標をニュースで放送し、ホームページにも掲載するなど、日々の変化がより分かりやすく伝わるように努める。

- 前半パートでは、オリンピック・パラリンピックの延期が決まり、さらに延期後に無事に開催される保証もない中で、アスリートの方々がモチベーションや生活・健康を維持していくことは本当に難しいのだろうと感じた。大阪のプロサッカーチームの宮本恒靖監督の、コロナ危機の前後で社会的な価値観が変わっても、スポーツ界が社会に提供出来る価値観は変わらない。夢や感動を与えたり、素晴らしいパフォーマンスを見せたり、困難に立ち向かう姿を見せたりすることによって、社会に明るい話題を提供すること、それをスポーツ界で一致団結してやっていくという趣旨のことは、本当にその通りだと思った。

後半パートでは、日常生活における感染予防策について、有益な情報を専門家の説明で視聴者にも分かりやすく発信されておりよかった。しかし、しばしば答えようのない質問があったり、回答についても精度が高いとは言えない、誤解を招きかねない場面が散見されたりした。検証がいまだ不十分なことについては、専門家がテレビなどで安易に口にすべきではない。NHKが発信する情報は影響力が大きいので、より精緻に調査を行ったうえで情報を発信して欲しいと思った。

- 前半パートについて、オリンピック・パラリンピックの延期は出場を目指す選手にとって大変衝撃的なことだったと思う。番組では、その苦しさがよく描けていた。新型コロナウイルスの拡大により努力で抗うことのできない、想定外のことも起こりうると思うが、アスリートたちには何とか乗り切ってほしいと思った。また、オリンピック・パラリンピックが延期されたことで、心理的に追い込まれるアスリートもいると思うが、中止という可能性もあり得る中で、オリンピックに限らずアスリートが多様な選択をできる社会をいかにして作っていくか、その糸口をつかむことができる番組があればよいと思った。特にオリンピックのみに注目が集まる中で、今回のようにパラリンピックに焦点を当てたことは素晴らしい。今後も個々のパラアスリートたちに焦点を当てた番組を作り、広く社会に紹介して欲しい。

後半パートでは、知りたい情報を知ることができただけでなく、不安になっていたのは自分だけではないということに気付くことができよかつた。新型コロナウイルスについて、SNSなどでもさまざまな情報が発信されているが、公共放送として、情報の正確さについて留意したうえで、今回のような番組が編成されるとよいと思つた。

- 前半パートでは、オリンピック・パラリンピックが開催される期間に、心身のコンディションが最高となるように照準を合わせ、結果を残すための準備をすることの難しさを知つた。また、スポーツもビジネスの一環として、スポンサーが付かなければ、選手は競技を続けられないこともよく分かつた。そうすると、オリンピック・パラリンピックの延期や、もし中止となつた場合、経済の停滞と相まって、アスリートたちから活躍するチャンスを奪うことになり、大変困難な状況となると思つた。メダリストである朝原宣治コメンテーターが提唱していた公的支援体制の整備が、アスリートを支える社会制度を考える一助となるかもしれないと思つた。

後半パートについて、宮澤教授の人柄をしのばせるような柔らかい物言いと、出演者の素直な質問は、視聴者にも親しみやすく良かつたと思うが、リモート接続の環境が不安定で、聞き取りにくい場面も散見されたので、制作者側で臨機応変な工夫があればよりよかつたと思う。今後、新型コロナウイルスが収束し日常生活が戻つてきたときこそ、文化や芸術の果たす役割が重要になってくると思う。そのときは新型コロナウイルス収束後の世界の在り方について、有識者よりも、一般市民の目線や声を拾い上げた特集や番組を作つてほしい。

(NHK側)

危険をあおるような情報のほうが注目を集めるということは、テレビに限らずあるが、NHKでは引き続き表現に気を付けて放送していく。現在、新型コロナウイルスの感染は収束に向かつており、いかに生活を立て直すかを考えていく状況にある。今後は新しい生活様式の組み立てなどにも重点を置いた報道を行つていく。視聴者の背中を押すようなニュースや番組も作つていきたい。

(NHK側)

新型コロナウイルスの拡大でこれまで通りの取材が困難な状況の中で、

多様で新しい価値観を伝えていくために、制作者としても新たな取材手法や表現方法を模索し、スポーツや音楽・演劇などさまざまな分野の動きを確実に伝えていきたい。

(NHK側)

後半パートについて、情報の一部に専門的見地から断定するのが難しい箇所があったという指摘については真摯（しんし）に受け止め、検証したうえで今後の番組制作に生かしていきたい。また、専門家が説明する際、テロップやスーパーなどのフォローが不十分で、視聴者に伝わりづらい部分があった。今後は改善していきたい。

<放送番組一般について>

- 2月14日（金）の『かんさい熱視線「境界知能～“気づかれない人たち”をどう支えるか～』を見た。境界知能に関する情報は、行政による支援は必要ないとされているが、学校に行きづらさを感じている子どもたちへの支援の必要性についての新しい視点として、必要とされている分野だと考えている。続編を楽しみにしている。

NHK大阪拠点放送局  
番組審議会事務局



## 4月近畿地方放送番組審議会休会のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、4月15日(水)に予定していた近畿地方放送番組審議会は休会となりました。

NHK大阪拠点放送局 番組審議会事務局